



2月1日(月) 岩城・大内地区



2月5日(金) 本荘・東由利地区



2月3日(水) 仁賀保地区



2月2日(火) 矢島・由利・鳥海地区

目次

P2-3 総代選挙結果

P6 造林コンクール、林業講習会

P8 木材市況、大内支所だより、
退職者のお知らせ

P4-5 地区座談会

P7 森づくりのワンポイント

平成27年度 地区座談会 開催

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp

300名の総代決定！

平成28年5月8日任期満了に伴う当組合総代選挙が執行されました。全ての選挙区で総代候補者が定数を超えなかったため無投票で300名の総代が決定しました。
第1区から第8区までの総代の方々は次の通りとなります。
3年間よろしくお願いいたします。
(届け出順)

第一区

(本荘地区 57名)

鈴木 利市 万願寺
齋藤 健志 谷地
加藤 政雪 松ヶ崎
畠山 洋三 鮎瀬
猪股 隆 鳥川
岩出 健市 中ノ目
佐々木 康次 金山
原田 専一 内黒瀬
田口 政男 坂ノ下
篠田 良夫 内黒瀬
齋藤 恒男 山内
田口 紘一 鳥前寺
阿部 晃 葛法
小松 秀雄 上野
小松 富士雄 上野
伊藤 義治 福田
齋藤 正行 柴野
三浦 和孝 柴野
猪股 孝裕 上野
太田 茂 鮎瀬

小松 勲 櫛引
富樫 公一 葉師堂
渋谷 正廣 館
鈴木 利夫 深沢
井島 柳一 柳生
高橋 卓次 川口
渡辺 薫 川口
加藤 茂弘 十二柳
松田 吉勝 三川
工藤 康治 藤崎
工藤 昇 内越
五十嵐 文夫 長者屋敷
田口 富男 畑谷
小松 澄雄 湯沢
板垣 憲一 滝ノ沢
伊藤 誠 宮沢
猪股 敏 栗山
菅原 晃 大沢
鎌田 三治 南ノ股
小松 勇喜 北ノ股
佐藤 千代治 葉師堂
猪股 兼三郎 砂子下
小川 久 川口

第二区

(仁賀保地区 43名)

大庭 悟 親川
渡会 清 船岡
有馬 賢一 石脇
田口 光雄 山田
小野 博司 土屋
今野 忠志 横山
藤原 浩 大浦
田中 和雄 二十六木
小松 敏夫 雪車町
菊地 謙一郎 宮沢
菊池 茂夫 三条
小松 正一 鳥田目
鈴木 久夫 万願寺
成田 正一 大中ノ沢
菊地 良作 伊勢居地
佐々木 紀夫 伊勢居地
佐藤 信一 上小国
半田 貢 小国
田仲 選 象潟
須田 壽夫 関

佐々木 忠道 小砂川
須藤 辰義 大砂川
鈴木 鍊 百目木
阿部 慶一郎 中ノ沢
新田 健造 小滝
阿部 春男 両前寺
齋藤 経幸 本郷
下居 登 小国
飯尾 祥一 立居地
今野 甚治郎 大竹
石塚 金一 琴浦
佐々木 恵悦 川袋
佐々木 好夫 畑
齋藤 好且 平沢
佐藤 美一 濁保
齋藤 義博 出戸
齋藤 博明 田高
山内 博 芹田
佐々木 成美 水岡
菊地 文彦 田抓
渡辺 優 馬場
齋藤 重明 小滝
須田 和夫 寺田
菊地 正敏 室沢
佐々木 三彦 大飯郷
佐藤 栄 桂坂
伊藤 仁一 院内
豊島 美文 院内
小川 正文 院内

第三区

(矢島地区 28名)

佐藤 容伸 洗釜
村上 和人 横岡
池田 和雄 馬場
佐藤 幸一 水沢
佐藤 金市 大森
齋藤 喜也 長岡
齋藤 正樹 舟岡
須藤 進 大須郷
伊豆 和美 持子
金子 喜久志 川辺
木村 三男 関末新郷
佐藤 一男 坂之下
三浦 専一郎 木在
三浦 良明 木在
佐藤 憲一 七日町
佐藤 勇一 田中町
佐藤 近美 中屋敷
佐藤 嘉孝 八ッ杉
茂木 忠雄 坂之下
三浦 晃 九日町
矢越 忠弘 矢越
三浦 富雄 小坂戸
今野 文雄 荒沢
大場 重夫 豊前寺
植田 農夫一 築館

第四区

(岩城地区 25名)

村上 一雄 石滝濁川
柴田 覚実 郷内御獄
佐藤 直千代 城新小田
佐々木 淑子 杉沢
豊島 昭一 新荘
佐藤 伸一 荒沢
真坂 克己 新所
佐藤 洋一 針ヶ岡
土田 武弥 須郷田
佐藤 英樹 川原小坂
佐藤 洋一 砂子沢
内道川自治会長
岸野 芳和 内道川
佐藤 弘 道川
佐々木 純一郎 上新谷
三浦 篤志 内道川
富田牧野組合
那須 勝弘 富田
柴田 鉄之丞 下蛇田
今野 隆幸 高畑
阿部 春男 雪川
田口 勇雄 二古
吉尾 正弘 滝俣
菊地 勇 勝手
工藤 祐康 町部
茜屋 秀雄 赤平

当組合総代選挙執行により

第五区

(由利地区 35名)

今野 光雄 上新谷
渡部 重修 滝俣
丸山 眞 六呂田
那須 繁夫 町部
伊藤 勇一 滝俣
田口 健三 泉田
堀井 秀雄 勝手
田口 修一 二古
渡辺 哲郎 富田
三浦 萬志一 君ヶ野
今野 憲一 君ヶ野
工藤 舜 上黒川

佐藤 隆 吉沢
三浦 繁雄 吉沢
熊谷 繁 中畑
植村 勲 館町
佐々木 宣徳 森子
庄司 和夫 飯沢
三浦 勲 土倉
鈴木 喜信 南福田
三浦 芳博 大木口
三浦 繁男 米山
村上 三敏 奉行免
佐藤 好一 蟹沢
渡部 金次 小菅野
石垣 金義 平石

第六区

(鳥海地区 28名)

鈴木 忠一 町村
高橋 豊 久保田
三浦 恵二 馬喰町
佐藤 誉司 屋敷
加藤 幸一 五十土
伊藤 昇 明法
木村 正 米山
正木 耕一 黒沢
木内 正 蒲田
佐藤 信悦 山本
尾留川 幹仁 大町
佐藤 善造 新上条
鈴木 文義 曲沢
鈴木 英夫 曲沢
石垣 正喜 立井地
佐々木 昭彦 寺田
木内 恵一 沢口
小濱 仁 上町
村上 長市郎 新屋敷
村上 一徳 新屋敷
佐藤 聖雄 田代

高橋 幸助 提鍋
村上 寿康 下ノ宮
佐藤 民也 中平根
佐藤 精子 伏見沢
菅野 重孝 中村

第七区

(東由利地区 30名)

佐藤 栄一 野宅
大友 松一 針水
佐藤 勇喜男 砂口
佐藤 義和 八木山
村上 治 長坂
三森 安幸 矢ノ本
真坂 憲一 中直根
真坂 勘兵衛 才之神
真坂 隆衛 猿倉
佐藤 久右衛門 大栗沢
佐藤 孝正 鶴田
三森 宗一郎 久保
佐藤 尚英 畑平
土田 房義 小川
真坂 昇一郎 中直根
小沼 七兵衛 模渕
原田 勲 瀬目
大友 輝夫 町
梶原 直 上直根
高橋 茂三郎 本屋敷
佐藤 賢太郎 吉谷地
真坂 和都 猿倉
小野 昭八 上百宅

佐藤 勝 五海保
畠山 弥惣雄 下通

工藤 俊雄 新処
佐々木 儀悦 下通
佐々木 正男 大琴
大庭 幸夫 舟木
小野 實 下吹
畠山 安蔵 智者鶴
佐藤 萬一 蔵
小野 松雄 蔵新田
古関 金雄 松柴
大日向 新一 宮の前
渡辺 幹夫 田代
小番 正裕 家の下
小松 良一 山崎
高橋 隆男 下小路
獄石 一人 田代
工藤 定男 野田
佐藤 十内 下小屋
佐藤 謙一 大吹川
横山 清 向田
高橋 重四郎 館新田
阿部 重助 野田
阿部 幸男 杉森
小松 進 家の下
佐藤 宗市 葎沢
遠藤 信一 小倉
佐々木 正千代 大琴
安倍 秋雄 八日町
小野 啓二郎 上里

第八区

(大内地区 54名)

斎藤 光一 中帳
佐藤 喜美雄 岩谷麓
大滝 亮 松山
東海林 圭一 小増沢
伊藤 金一 朴沢
鈴木 久 三川
遠藤 忠男 羽広
小石 雄一 深沢
小石 信一 深沢
佐々木 慶嗣 的場
太田 清隆 見岫
佐々木 金七郎 立寄
伊藤 喜一 三川
高野 陽一 的場
高橋 三夫 岩谷
斎藤 彰憲 北福田
阿部 明 新田畑
佐藤 宰 新沢
伊藤 征 葛岡
東海林 憲英 葛岡
中村 勝男 葛岡
斉藤 幸雄 松本
山本 昇 及位
村山 一郎 及位
佐々木 政一 新沢
佐々木 正 北福田
伊藤 新 板井沢
阿部 修一 小羽広
畠山 武一 軽井沢
小野 勇 松本

斎藤 光一 中帳
佐藤 喜美雄 岩谷麓
大滝 亮 松山
東海林 圭一 小増沢
伊藤 金一 朴沢
鈴木 久 三川
遠藤 忠男 羽広
小石 雄一 深沢
小石 信一 深沢
佐々木 慶嗣 的場
太田 清隆 見岫
佐々木 金七郎 立寄
伊藤 喜一 三川
高野 陽一 的場
高橋 三夫 岩谷
斎藤 彰憲 北福田
阿部 明 新田畑
佐藤 宰 新沢
伊藤 征 葛岡
東海林 憲英 葛岡
中村 勝男 葛岡
斉藤 幸雄 松本
山本 昇 及位
村山 一郎 及位
佐々木 政一 新沢
佐々木 正 北福田
伊藤 新 板井沢
阿部 修一 小羽広
畠山 武一 軽井沢
小野 勇 松本

岩城・大内地区座談会

2月1日(月) 岩城・大内地区の組合員を対象に大内のメーブルで座談会を開催しました。56名の組合員の参加をいただき、岡見晃一理事が進行を務めました。座談会の質疑応答の一部をご紹介します。

Q、木材の自由化にともない山が荒れてきた。今回のTPPに対してが組合ではどのような意見をもっているのか。

A、全森連ではJ Aと一緒に反対をしている。昭和39年に木材の間税が撤廃になって以降、国際経済の中で日々の戦略が変わってきている。今後林地残材等の活用を活かしながら取り組みたい。

Q、今度のオリンピックでは、木材を多く使用するような話があるが、森林認証において、ヨーロッパの方が先進地となっているようながなぜなのか。

A、ヨーロッパは環境に対する取り組み方・考え方の団体・組織がかなり多く、取り組みが早かったことが要因と思われる。県としてオリンピックに向けた木材の使用を進めている。

Q、どの程度面積があれば間伐の事業が出来るのか、また自己負担はどの程度なのか。

A、1人の面積が最低でも1反歩(10a)以上、周辺のまとまりが5ha、1回で申請する面積が5haという形になる。受益的なものに関しては、支所と打合せをして欲しい。



矢島・由利・鳥海地区座談会

2月2日(火) 鳥海・矢島・由利地区の組合員を対象に鳥海の紫水館で座談会を開催しました。74名の組合員の参加をいただき、佐藤喜久一郎理事が司会を務めました。座談会の質疑応答の一部をご紹介します。

Q、皆伐の場合、どの種類の樹種を植栽すればいいか。

A、適地適木の原則に従い、森林環境すなわち林地条件等も考慮しながら、造林することを勧める。その場合、造林地に合う苗木を組合員と話し合い、造林する。

Q、全国的に、森林の更新のため主伐が多くなっており、スギ苗木が不足している傾向がある。九州地域では、『コンテナ苗木』などを研究し、実際に生産し、出荷している。そこで、組合でも、コンテナ苗木の生産に取り組んでは、どうか。

A、コンテナ苗木の生産については、今後検討していきたい。

Q、以前は、『作業道』について交付金制度で管理することが出来た。しかし、現在では交付金制度がないため作業道が荒廃している。以前のように、交付金で助成してもらえないか。また、搬出した場合に、林地に残材が残っているの、林業機械を貸与することは出来ないか。

A、現在、交付金制度では助成できない状況にある。今後も引き続き毎年国に要望してまいりたい。また、林業機械の貸与については、安全衛生対策上、リース等は出来ない。



仁賀保地区座談会

2月3日(水) 仁賀保地区の組合員を対象に仁賀保のスマイルで座談会を開催しました。30名の組合員の参加をいただき、齋藤惣一郎理事が進行を務めました。座談会の質疑応答の一部をご紹介します。

Q、40〜50年くらいになる山林を売ろうかと思うが、立木の1本あたりの価格はいくらか。

A、300〜700円くらいと思われるが状況を見ないとわからない。80年生以上になると違ってくるので一度現地を見せて欲しい。

Q、27年度の造林補助制度の中で、受託と代理申請の違いを教えてください。

A、代理申請は、「事務処理は組合で行い、作業は森林所有者が行う。受託はすべて森林組合が行う。森林所有者個人でやる場合は作業を行う前に組合の方へ相談して欲しい。

Q、TPPの我々に対する影響はあるのか。

A、昭和38年に関税が撤廃されているが合板などは5〜10年後に完全撤廃の予定。1ドル360円のころは影響なかったが、為替レートによつては影響があるかもしれない。



本荘・東由利地区座談会

2月5日(金) 本荘・東由利地区の組合員を対象に東由利の湯楽里で座談会を開催しました。81名の組合員の参加をいただき、初瀬東一理事が司会を務めました。座談会の質疑応答の一部をご紹介します。

Q、職員の兼務や臨時が多い。運営に支障はないのか、正常に戻るのいつになるか。

A、3月末まで、所長を兼務とし事業に支障のないように取り組んでいる。臨時については今後の事業規模も考えながら対応したい。

Q、経営や売買の方法などについて、資料等で指導願いたい。

A、100年生林分の調査もしたことがあり、択伐施業等計画し、HPに掲載するなど考えている。今後の検討課題とさせてほしい。

Q、矢島地区で行われている、丸太の生産に地域通貨を付加した取り組みの地域拡大は考えてないか。

A、(市)国の補助事業として始まり、27年からは市が不足分を補填する実験事業として行っている。現状は、通貨に対応する店舗が未定の状態。矢島に限定するものではなく、どのエリアでも実行可能。ただ、行政主体ではなく、地域組織の運営になる。



第21回造林コンクール表彰授与式・林業講習会



「第21回造林コンクール授与式並びに林業講演会」が2月16日、約90名の出席のもと本荘グランドホテルを会場に開催しました。

小松組合長の挨拶にはじまり、由利地域振興局長 佐々木 則夫様、由利本荘市長 長谷部誠様、由利森林管理署長 小野義秀様、秋田県森林組合連合会副会長理事 関重征様よりご祝辞をいただきました。各部門での入賞者表彰後、審査委員長の由利地域振興局森づくり推進課長 原田様より審査講評が行われました。

今回のコンクールには幼齢林の部、枝打の部、保育間伐の部、収穫間伐の部の4部門に12件の申し込みがあり、審査の結果、8名の方が受賞されました。



受賞者紹介

【幼齢林の部】

◆1 位 南 福 田 集 落 (由 利 地 区)

【枝打ちの部】

◆1 位 三 浦 哲 太 郎 氏 (矢 島 地 区)

◆2 位 渡 辺 幹 夫 氏 (東由利地区)

【保育間伐の部】

◆1 位 新 田 耕 一 氏 (矢 島 地 区)

【収穫間伐の部】

◆1 位 岩城町滝俣生産森林組合 (岩 城 地 区)

◆2 位 畑 山 作 喜 氏 (東由利地区)

◆3 位 伊 藤 誠 氏 (本 荘 地 区)

◆奨励賞 五 十 土 集 落 (由 利 地 区)

受賞おめでとうございます



受賞者各位



講師 櫻田良弘 氏

秋田県由利地域振興局農林部長の櫻田良弘氏を講師にお招きして、「地域を元気にする秋田スギの活用に向けて」と題してご講演いただきました。

本県の人口の動向と、住宅の着工数やスギの需要の変化など、グラフを交えて説明がありました。これらをふまえ、林業への着眼点や方向性を述べられ、秋田県ではどのような取り組みが行われているかなど事例をもとに発表されました。

最後に今後の林業の動向についてまとめられ、非常に内容の濃い講演となりました。

林業講習会を開催しました



森づくりのワンポイント

第5回

これからの森づくりに当たって

- ★通常、造林や間伐などの森づくりに当たっては、造林補助制度を活用しますが、補助制度の趣旨は、森林の経済性を高めることのほか、地域を災害から守ったり、自然との関わりを維持するなど、環境に配慮した森づくりをすることが目的となっています。
- ★これまでも、私たちの住む地域や毎日の生活が、森林の恩恵に培われてきたように、こうした考え方のもとに森づくりをしていくことが、将来にわたって、本荘由利地域の生活や文化を守り、育んでいくことになるのではないのでしょうか。
- ★近年、収益性を高める等のため、低コスト化が叫ばれていますが、低コスト化の基本は、“自然に逆らわず”、“金のかからない”森づくりをすることが、長いスパンを要する林業では大切なことと思います。
- ★以上のことを踏まえ、これからの森づくりに当たって、留意すべき事項を以下に上げました。
 - ① 海岸地域の砂地には、スギの植栽は避ける（砂地は、夏期には、地温が60℃以上になることもある）
 - ② 内陸部の豪雪地帯（最深積雪2.5m以上）のスギ人工林は、長伐期施業を進める。
 - ③ 尾根筋（両脇50m）は、広葉樹を仕立てる。現在、尾根筋まで、スギが植栽されている場合は、再造林等の時に切り替えていく。
 - ④ 標高450～500m以上の箇所には、スギは植栽しない。
 - ⑤ 地位の低い箇所には、極力、植栽しない。（広葉樹を植栽する場合は、特に留意する）
 - ⑥ 急斜面（25°以上）には、スギは植栽しない。
- ★以上のことがらは、一見当たり前のことのののように思われますが、従前の拡大造林政策では、自然に逆らった施業をしてきた箇所が多くあります。こうした箇所については、少しずつ切り替えていく必要があります。
- ★こうしてみると今後もスギ人工林で循環していくべき個所と、今の人工林は一代限りで、その後は広葉樹林等へ導くべき個所などに区分されると思われます。



木材市況情報 (平成28年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m 当り 価格

			1月13日			2月5日			3月4日		
樹 種	材 長 m	径 級 cm	本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高 値	安 値	平均価格	高 値	安 値	平均価格	高 値	安 値	平均価格
ス ギ	3.65	14						(1, 509) 5, 434			
		16～22	(2, 455) 8, 839	(2, 448) 8, 812	(2, 452) 8, 826	(1, 570) 8, 652	(2, 138) 7, 698	(2, 356) 8, 481	(2, 366) 8, 517	(2, 360) 8, 497	(2, 363) 8, 508
		24～34	(3, 291) 11, 849	(3, 086) 11, 109	(3, 213) 11, 567	(3, 402) 12, 248	(2, 933) 10, 557	(3, 239) 11, 660	(3, 213) 11, 565	(3, 066) 11, 038	(3, 164) 11, 392
出材量・販売量・販売率			516㎡(1,858石)・494㎡(1,778石) 96%			747㎡(2,689石)・513㎡(1,847石) 69%			498㎡(1,793石)・269㎡(968石) 54%		

1月：4mは材質が悪く応札がなかったが、それ以外は完売。量産工場と山形県勢の手当が入った。単価は横バイ。
2月：4m材は引き合いがなく応札なし。常連業者の参加により3.65mは手当されたが、材質次第の取引。総じて単価はやや弱含み。
3月：材質が今一步の巻き立ては応札なし。全般にやや弱含みの推移。



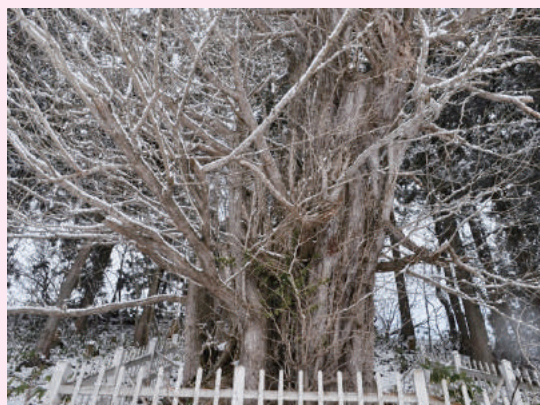
大内支所だより

さかさイチョウ(大内堀切)

幹廻り8m、樹高約30mでオスのイチョウとしては東北では有数の大きさで、昭和43年、県の天然記念物に指定される。

由来については不明だが、約400年前、弘法大師が東北を巡礼の折に、杖にしていたイチョウの杖をさかさに立てたものに根がついたという伝説がある。

また、垂れ下がった気根を煎じて飲むなど乳不足で悩む女性の信仰対象ともなっている。



退職者のお知らせ

【職員】
●平成27年12月31日付
岡部 由男
(参事兼総務課長)

●平成28年3月31日付
原 泰彦
(林産販売課係長)

●平成28年3月31日付
萩野 功
(大内支所兼東由利支所長)

●平成27年12月31日付
斎藤 清稔
(岩城支所長)

●平成27年12月31日付
本間 慎二
(造林課主任)

●平成27年12月31日付
太田 岬
(林産販売課)

●平成28年1月31日付
高橋 和弘
(加治工課)

●平成28年3月14日付
堀 弘治
(造林課)

●平成28年3月14日付
工藤 泰和
(林産販売課)

●平成28年2月29日付
伊藤 公夫
(林産販売課)

●平成28年3月31日付
浅田 照信
(東由利支所)

地域林業と森林組合の発展のため、頑張っていたいただきました。今後の益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。